

令和7年度 第2回三条市介護保険運営協議会次第

日時：令和8年3月23日(月) 午後1時15分

場所：三条市役所第二庁舎 301会議室

1 開 会

2 議 題

第10期介護保険事業計画策定に向けた各種調査の実施及びその結果について

…資料1, 2

3 その他

4 閉 会

※ 協議会終了後、地域包括支援センター運営部会を開催します。

第10期介護保険事業計画策定に 向けた各種調査の実施について

三条市福祉保健部高齢介護課

1 介護保険事業計画について

介護給付の円滑な実施のため、3年間で1期とする介護保険事業計画を策定（次期計画 第10期：R9～R11）

国の基本指針 (法第116条)

介護保険法第116条の第1項に基づき、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律に規定する総合確保方針に即して、国が介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本指針を定める。

※第10期 介護保険事業計画 基本指針については、R83.9時点の内容

【参考】第10期 介護保険事業（支援）計画 基本指針の構成 より抜粋

第二 市町村介護保険事業計画の作成に関する事項

一 市町村介護保険事業計画の作成に関する基本的事項

- ・基本理念、達成しようとする目的及び地域の実情に応じた特色の明確化、施策の達成状況の評価等
- ・要介護者等地域の実態把握
- ・都道府県との連携
- ・第10期の目標 など

二 市町村介護保険事業計画の基本的記載事項

- ・日常生活圏域
- ・各年度における介護給付等対象サービスの種類ごとの量の見込み
- ・各年度における地域支援事業の量の見込み など

市事業計画(法第117条)

- 日常生活圏域の設定
- 各年度における種類ごとの介護サービス量の見込み（圏域別）
- 各年度における必要定員総数（圏域別）
- 各年度における地域支援事業の量の見込み
- 介護予防・重度化防止の取組内容及び目標
- 在宅医療・介護連携の推進の取組内容及び目標
- 生活支援体制整備の取組内容及び目標
- 認知症施策の推進の取組内容及び目標 など

▶ **保険料の設定、地域密着型サービス等のサービス提供基盤の整備**

県事業計画(法第118条)

- 老人福祉圏域の設定
- 市町村の計画を踏まえた介護サービス量の見込み
- 各年度における必要定員総数
- 市町村が行う介護予防・重度化防止等の支援内容及び目標 など

▶ **介護保険施設等のサービス提供基盤の整備**

2 第10期介護保険事業計画策定プロセスについて

介護サービスの給付状況の把握

将来推計人口、認定率、利用率の伸び

国が示す事業計画策定に必要な調査(任意)

調査項目	対象者・分析対象	主な目的
介護予防・日常生活圏域二一ス調査	要介護以外の高齢者	要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握し、地域課題を明確化、総合事業を評価
在宅介護実態調査 (介護サービス利用意向調査含む)	要介護認定者とその介護者	適切な在宅生活の継続と介護者の就労継続のための介護サービスの在り方を検討
介護事業所アンケート調査	介護事業所・施設	介護サービスの供給量を把握（定員、稼働日数等）
ケアマネジャーアンケート調査	ケアマネジャー	在宅生活継続に必要なサービスや生活支援等の実態把握
在宅生活改善調査	ケアマネジャー	地域に不足する介護サービス等を検討
居所変更実態調査	介護施設、居住系サービス	入所・退所理由等を把握し住まいの提供体制を検討
介護人材実態調査	介護事業所・施設	介護人材の実態を把握し人材確保策を検討
施設整備意向調査	介護関係の法人	施設等の整備意向を調査

高齢者実態調査

地域ケア会議等による地域課題の把握

- 地域ケア会議、分析ツール（地域包括ケア見える化システム）等による地域課題の把握・分析

将来推計（素案）

介護保険事業計画策定

3 各種調査の内容等について

	高齢者実態調査	
	介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	在宅介護実態調査
調査項目の概要	<p>【質問項目の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家族や生活状況について 家族構成、経済状況、介護・介助の状況、住まいの状況 ● からだを動かすことについて 身体機能の低下（立ち上がり、歩行、転倒経験等） 外出頻度、外出目的、外出を控えている理由、移動手段 ● 食べることについて 身長・体重、体重減少、口腔機能の低下（噛む力、口の渇き）、 口腔内の状況（歯磨き実施有無、歯の本数・入れ歯等） 歯科受診の状況、共食の機会等 ● 毎日の生活について 認知機能の低下（物忘れ、買物、食事用意、書類作成の状況等）、 健康への意識、健康情報収集の方法(PC,スマホなどを活用有無)、 趣味、生きがい、友人との交流、生活の満足度、 生活支援ニーズの把握 ● 日常の歩行と運動について 歩行・運動の意向と実施状況、歩行・運動の時間 ● 地域での活動について 社会参加の状況（グループ等への参加）、市事業の認知度 ● 就労について 就労状況や退職年 ● たすけあいについて 友人・知人との関係、相談先、将来的な権利擁護ニーズの把握 ● 在宅医療、認知症に関すること 介護が必要になったときに過ごしたい場所、在宅医療の理解度、 認知症予防、自分ができる認知症の人への支援(「新しい認知症観」)、 相談窓口の認知度、日常生活上困っていること、周囲の人が困っているときの対応等 ● 健康について 主観的健康観、幸福度、生活習慣(酒・たばこ)、治療中の疾患等 	<p>【質問項目の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家族や生活状況について 介護の頻度、主介護者の続柄・年齢等 ● 介護の状況などについて 介護内容、主介護者の就労状況、施設の検討等、 要介護者の急変時の対応について話し合っているか、 要介護者を最期まで自宅で介護したいと思うか、 在宅での看取りをするために必要な条件 ● 本人（要介護者）の医療について 傷病、訪問診療利用状況 ● 本人（要介護者）の介護保険について 介護サービス利用状況 ● 介護者の就労状況や介護等について不安に感じること 主介護者の勤務形態、働き方の調整の有無、 今後の就労の意向、主介護者が不安を感じる介護等 ● 介護負担軽減を目的とした事業について 家族介護支援事業等の認知度、 介護者が参加したいと思う事業内容等 ● 認知症に関することについて 認知症の人への支援(「新しい認知症観」)
実施時期	令和8年1月6日～1月27日	令和8年1月6日～1月27日
調査対象	65才以上の一般高齢者及び要支援1・2の方	在宅で要支援、要介護を受けている方とその介護者
調査件数	5,000件	1,000件

※高齢者実態調査
下線なし…国基本項目・
オプショナル項目
下線あり…独自項目

3 各種調査の内容等について

	ケアマネジャー向け調査 (介護サービス提供能力調査、在宅生活改善調査を含む)	介護事業所・施設向け調査 (介護サービス提供能力調査、介護人材実態調査を含む)
調査項目の概要	<p>【質問項目の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業所に関すること 介護予防プランの受託状況、ひめさゆりネットの導入意向 等 ●介護支援専門員の基本事項等 経験年数、要介護度別の利用者数 等 ●ケアプランの作成について 利用者への自立支援に関する説明状況 給付適正化加算の算定状況 介護予防事業、地域資源の活用状況 サービス提供料が不足していると感じる介護サービス ケアマネジメントを行う上で対応が困難な事例 利用限度額を超えるケース数(要介護度別)とその理由 等 ●地域包括支援センターとの連携について 連携内容、包括からの支援のうち充実が必要な支援 等 ●利用者の生活状況について 利用者の居所状況(自宅、ケアハウス等) 現在のサービスで生活の維持が困難な利用者の状況 ●生活支援について 自宅・地域での生活を維持するために役立つサービス・ボランティア ●介護予防・生活支援サービス事業について 訪問型・通所型サービスの利用者の状況 等 ●在宅医療・介護連携の取組について 医療処置・管理が必要な利用者の状況 主治医との連携状況 等 ●認知症の取組について 認知症の人が在宅で暮らし続けるために必要なサービス・取組 「新しい認知症観」の理解 ●権利擁護の取組について 成年後見制度の利用に関する支援状況 虐待が疑われる状況への対応 等 ●人材確保について ケアマネジャー確保に必要な取組や業務改善 	<p>【質問項目の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●サービス提供体制について 提供サービスごとの年間平均利用定員 年間平均稼働日数 医療処置必要者・ターミナル期の受入れ 等 ●職員体制について 職種ごとの職員数(常勤・非常勤の別) 離職者の離職理由、この1年間の人材確保状況 等 ●職員の人材育成 社内研修・社外研修の実施有無・内容 ●サービスの質の向上の取組について ●利用者・家族、外部の関係機関との連携について 外部の関係機関との連携状況、ひめさゆりネットの導入状況 等 ●運営に関する課題・市への要望について 人材確保に必要な取組 ●地域における取組(地域貢献含む)について ●ボランティアの受入について
		<p style="text-align: center;">介護施設向け調査 (居所変更実態調査)</p> <p>【質問項目の構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定員数、入所者・入居者数、待機者について ●入所者・入居者について 要介護度、1年間の新規入所者・入居者数、 入所・入居前の居所 ●退去者について 1年間の退去者数、要介護度、退去後の居所、退去理由
実施時期	令和7年12月19日～令和8年1月8日	令和7年12月22日～令和8年1月20日

4 今後のスケジュールについて(案)

	R7 10月	11月	12月	R8 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R9 1月	2月	3月	4月
各種調査	調査項目の検討			ケアマネジャー向け調査	分析														
	調査項目の検討			介護事業所・施設向け調査	分析														
	調査項目の検討			介護施設向け調査 居所変更実態調査	分析														
	調査項目の検討			介護予防日常生活圏域ニーズ調査	分析														
	調査項目の検討			在宅介護実態調査	分析							事業者参入意向調査							
素案作成							基本目標								施設整備 保険料				
協議等						介護保険運営協議会						介護保険運営協議会				市民福祉協議会 介護保険運営協議会	パブリックコメント 介護保険運営協議会		
配布																			配布

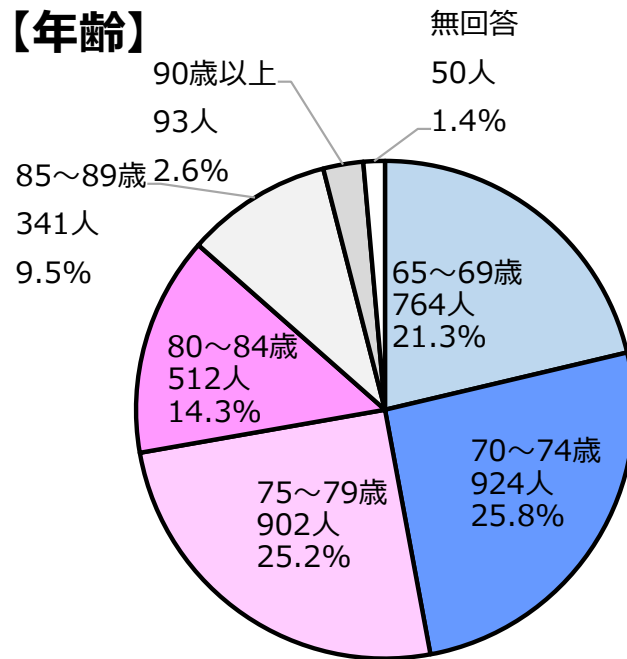
第10期介護保険事業計画策定に 向けた各種調査の結果について

三条市福祉保健部高齢介護課

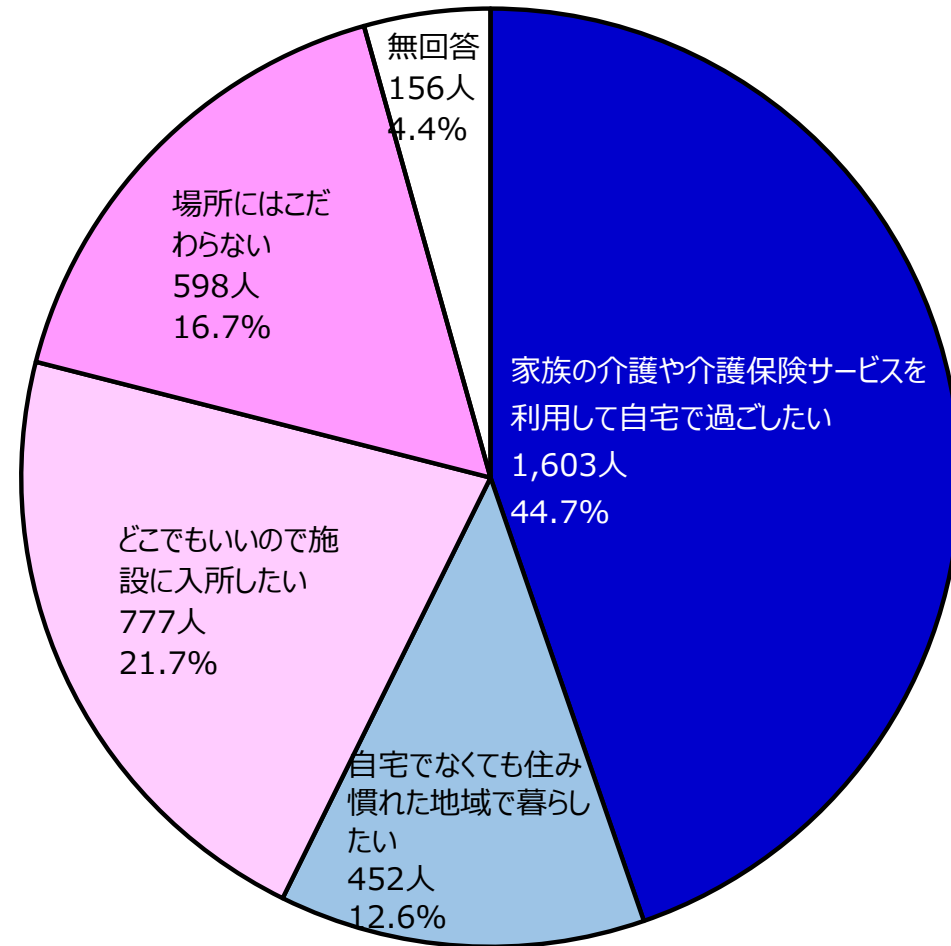
1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（抜粋）

回答率71.7%
n=3,586

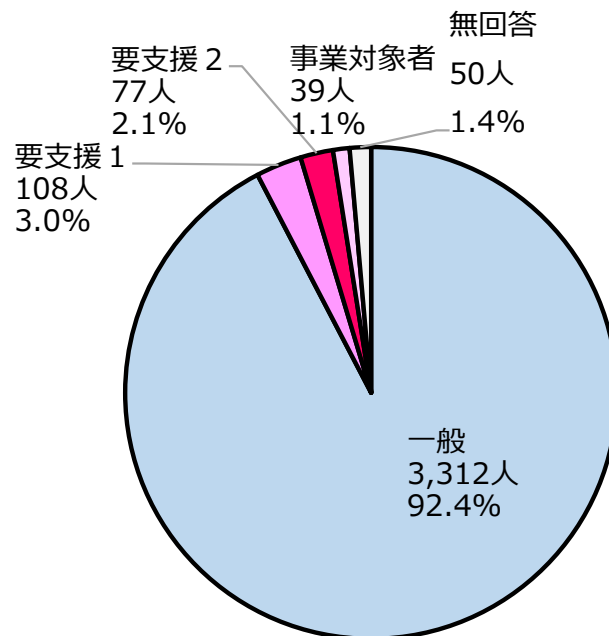
【年齢】



【将来、介護（支援）が必要になったときに過ごしたいところ】



【要支援認定状況】

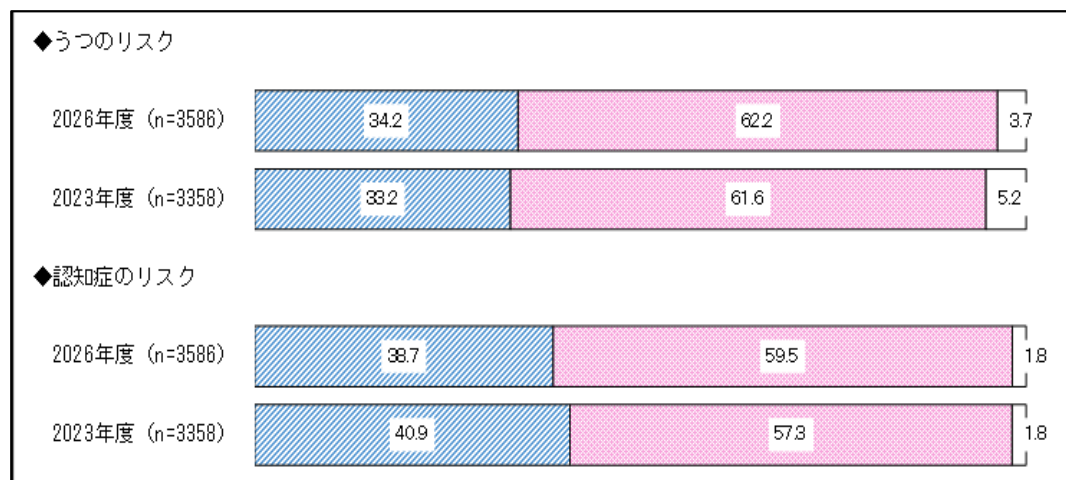
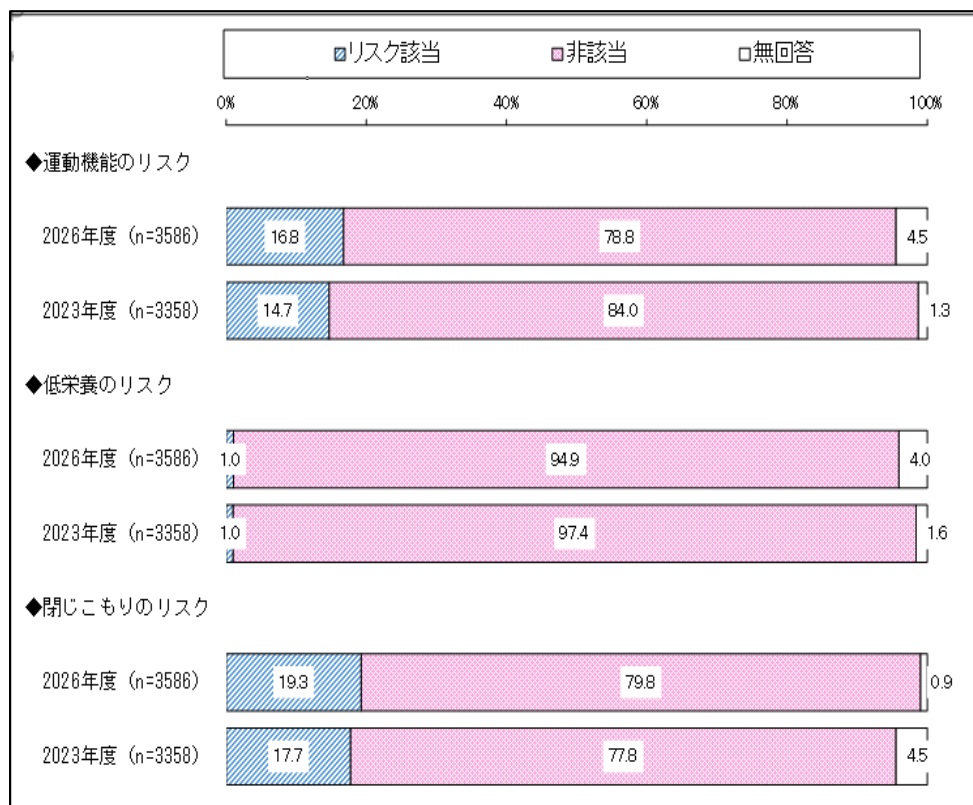


2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（抜粋）

【要介護リスク者の割合】 各種質問からそれぞれのリスクを分析(転倒への不安や生きがいの有無、口腔の状況など)

三条市全体として、最もリスク該当者の割合が高いのは「認知症」で約4割となっており、次いで「うつ」が3割台、「閉じこもり」が約2割となっている。

また、2023年度と比較して「運動機能」と「閉じこもり」、「うつ」リスク該当者の割合が高くなっている。

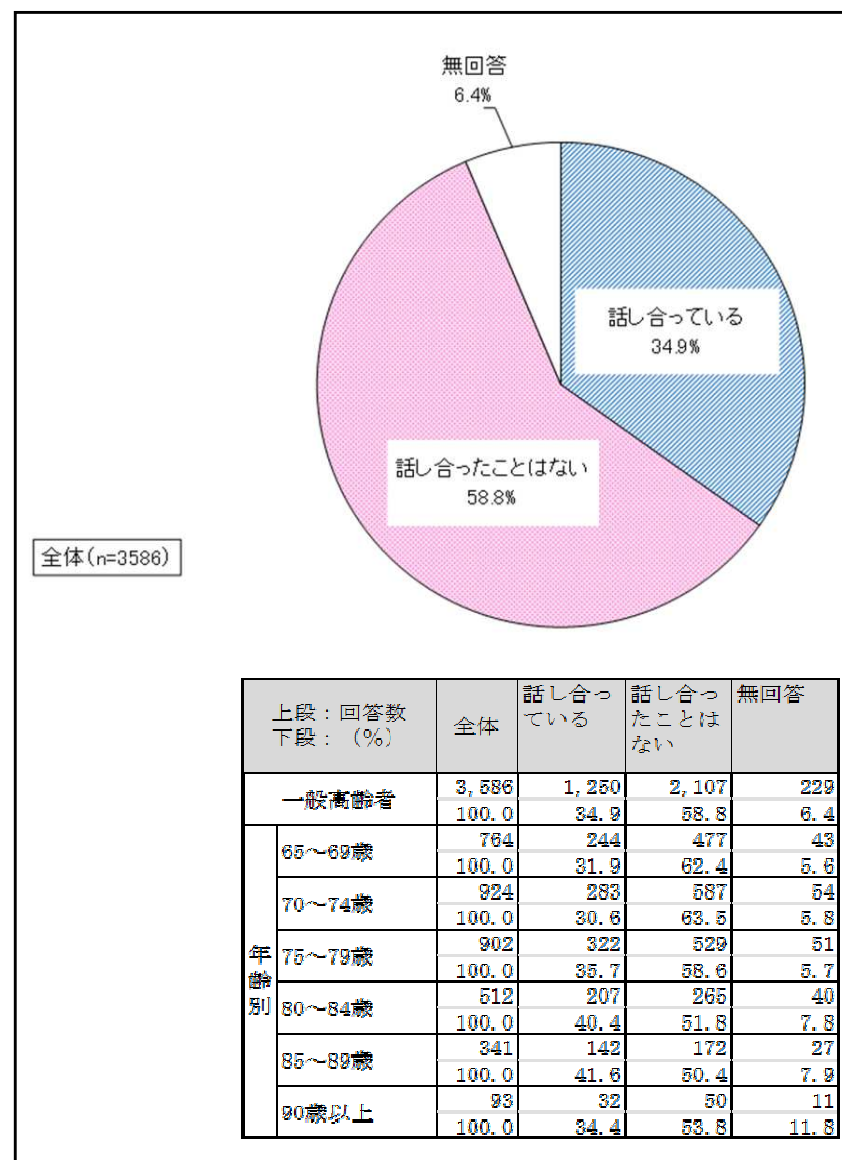
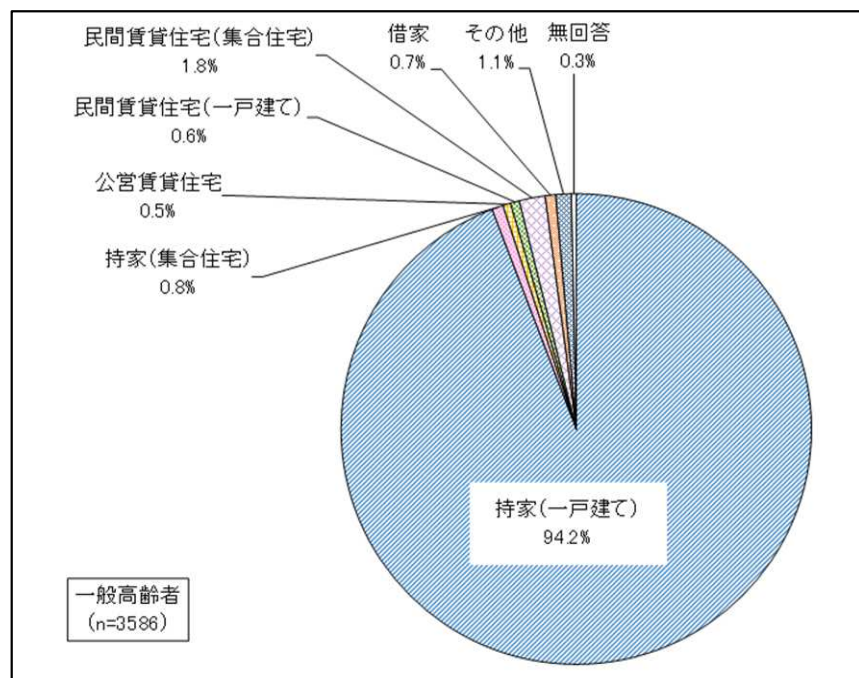


2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（抜粋）

【住まいの状況】

住居は、「持家（一戸建て）」が94.2%を占めている。

また、持家の方が、自宅の管理や処分、相続（自宅を管理不全な空き家にしないための準備）について、家族や親族と「話し合っている」割合は3割半ばとなっており、年齢が上がるほどその割合が高くなる傾向（90歳以上を除く）がみられる。



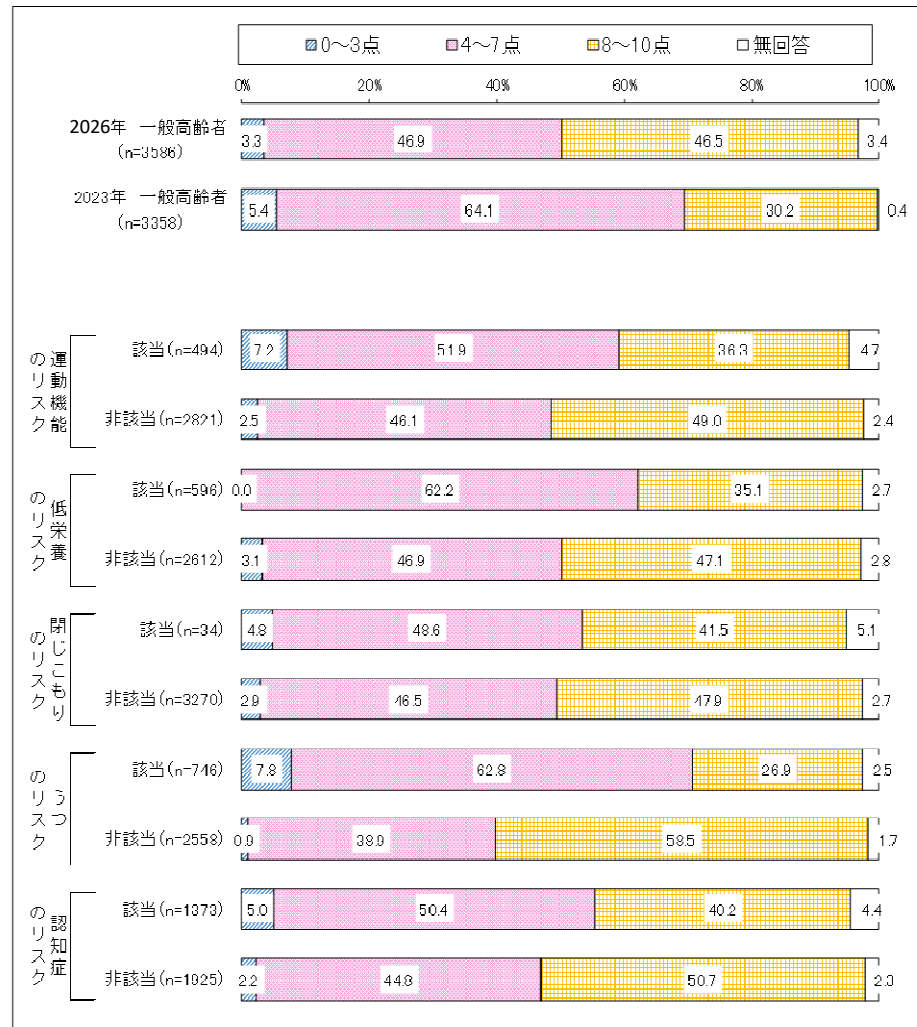
上段：回答数 下段：(%)	全体	話し合っ ている	話し合っ たこと はない	無回答	
一般高齢者	3,586 100.0	1,250 34.9	2,107 58.8	229 6.4	
年齢別	65～69歳	764 100.0	244 31.9	477 62.4	43 5.6
	70～74歳	924 100.0	283 30.6	587 63.5	54 5.8
	75～79歳	902 100.0	322 35.7	529 58.6	51 5.7
	80～84歳	512 100.0	207 40.4	265 51.8	40 7.8
	85～89歳	341 100.0	142 41.6	172 50.4	27 7.9
	90歳以上	93 100.0	32 34.4	50 53.8	11 11.8

2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（抜粋）

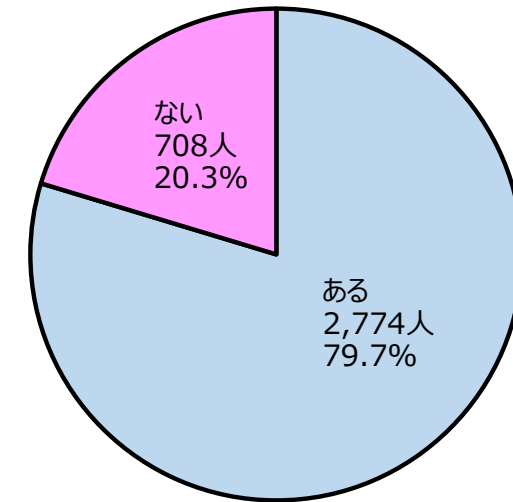
【幸福度別主観的健康感】(0～10点で回答)

前回（2023年度）調査と比較して、「8～10点」の割合が46.5%と高く、一方で「4～7点」の割合が46.9%と低くなり、幸福度は向上している。

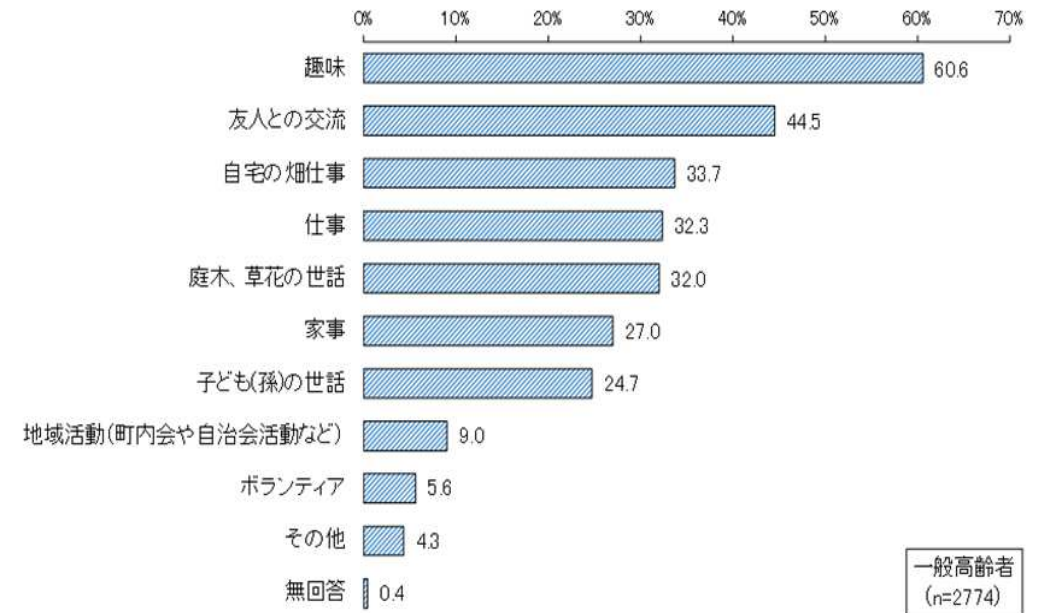
リスク別にみると、すべてのリスクで、該当する方は該当しない方よりも、幸福度が低い傾向がみられる。何らかのリスクに該当するか否かが、幸福度に強く影響していることがみてとれる。



【生きがい、充実感を感じること】



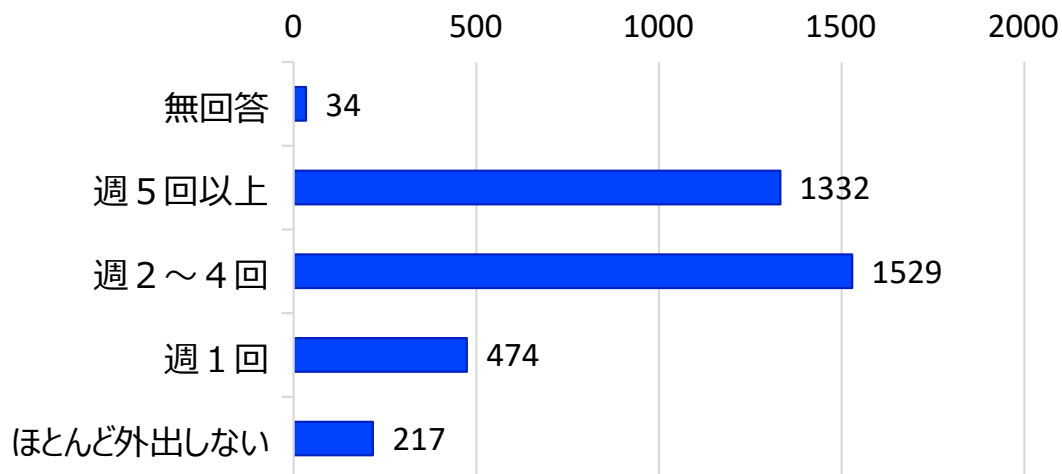
【生きがい、充実感を感じることの内容】



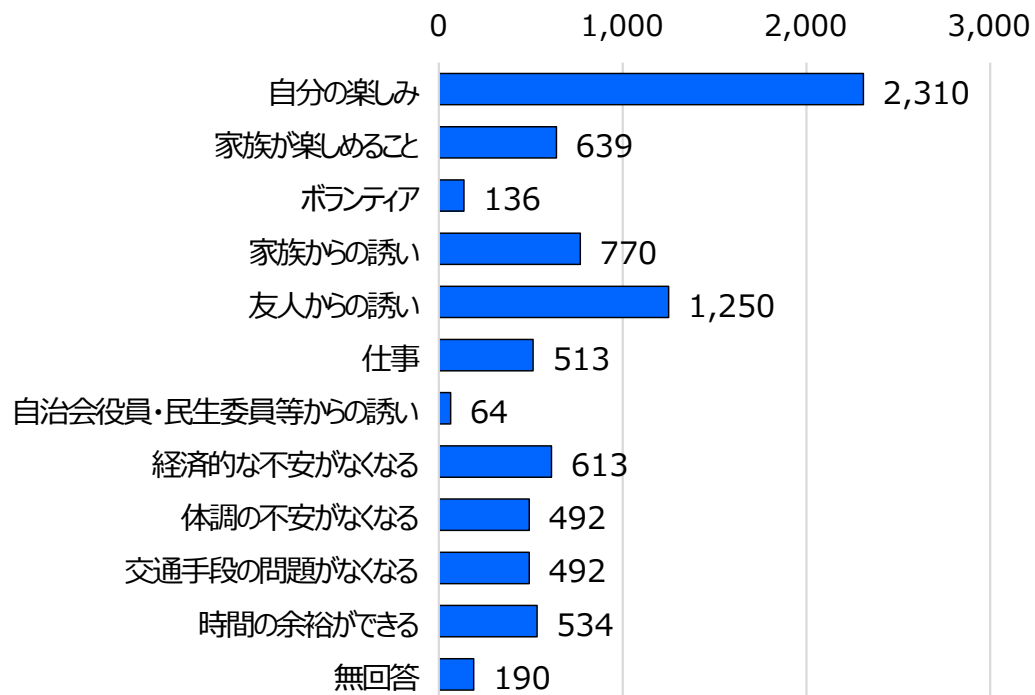
一般高齢者 (n=2774)

2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（抜粋）

【外出の頻度】

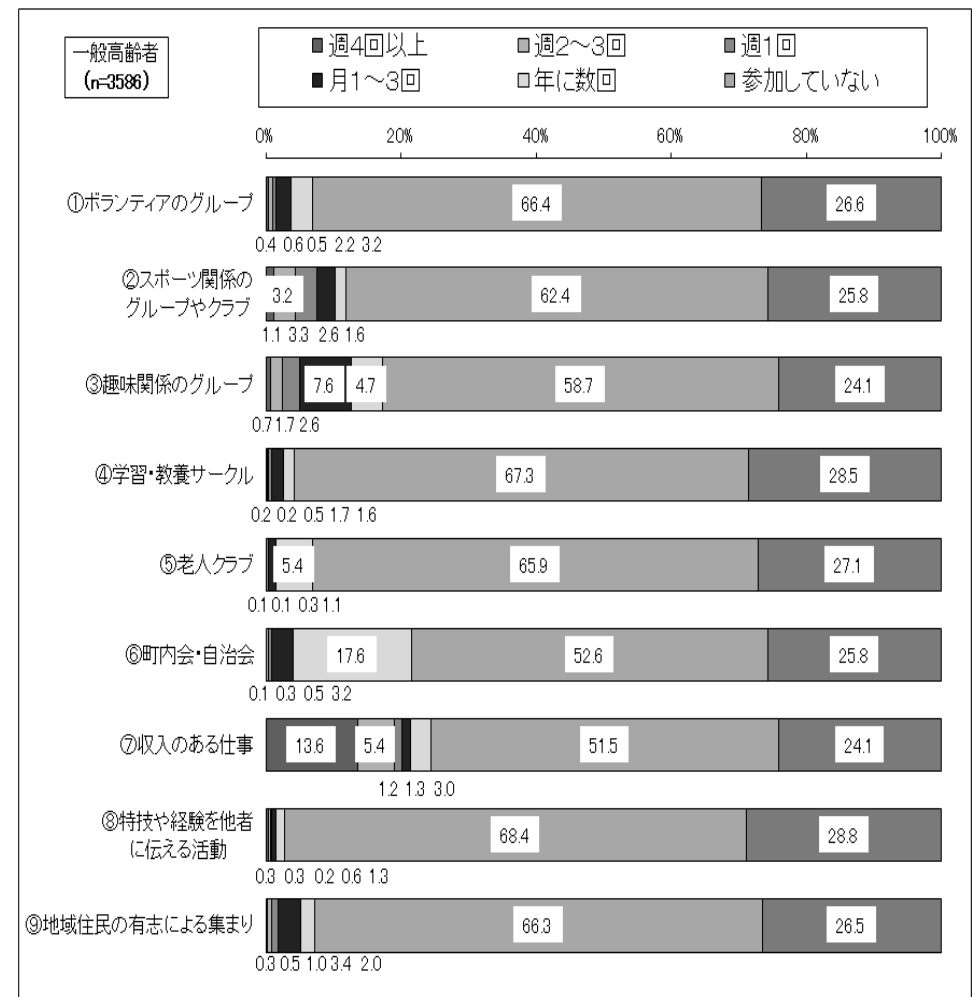


【外出頻度が増えるきっかけとなること】



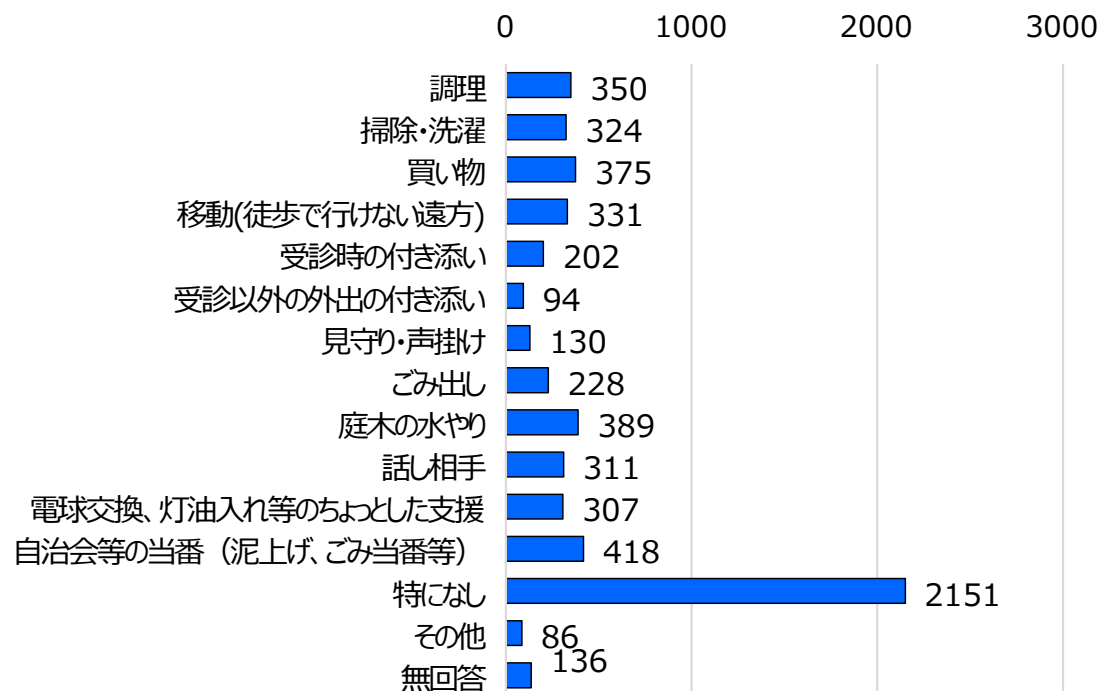
【社会参加活動】

参加頻度が高いのは、＜⑦収入のある仕事＞となっています。＜⑧特技や経験を他者に伝える活動＞＜④学習・教養サークル＞は、参加頻度が低くなっています。

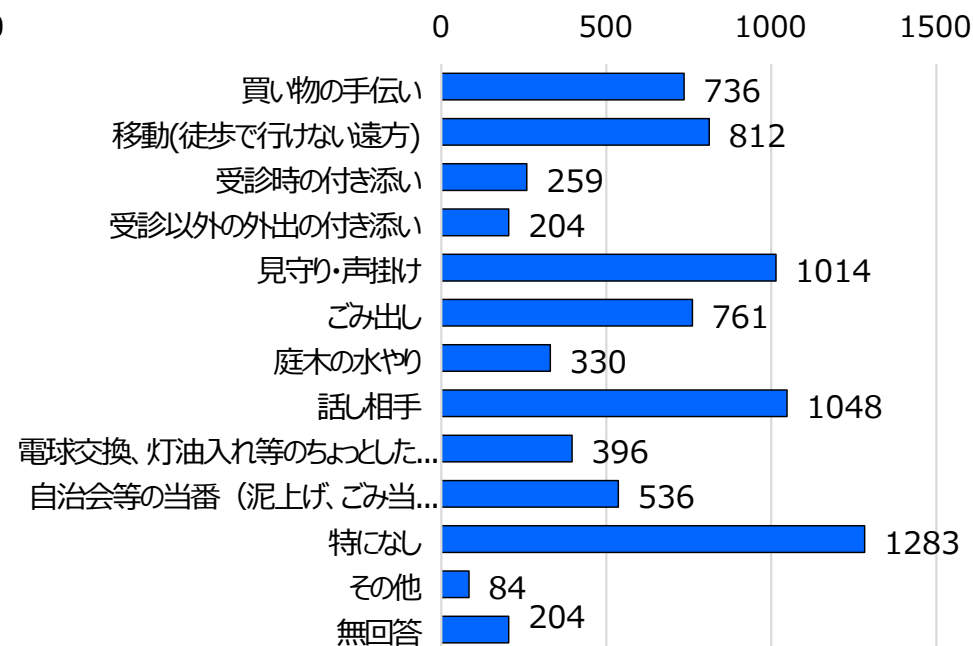


2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（抜粋）

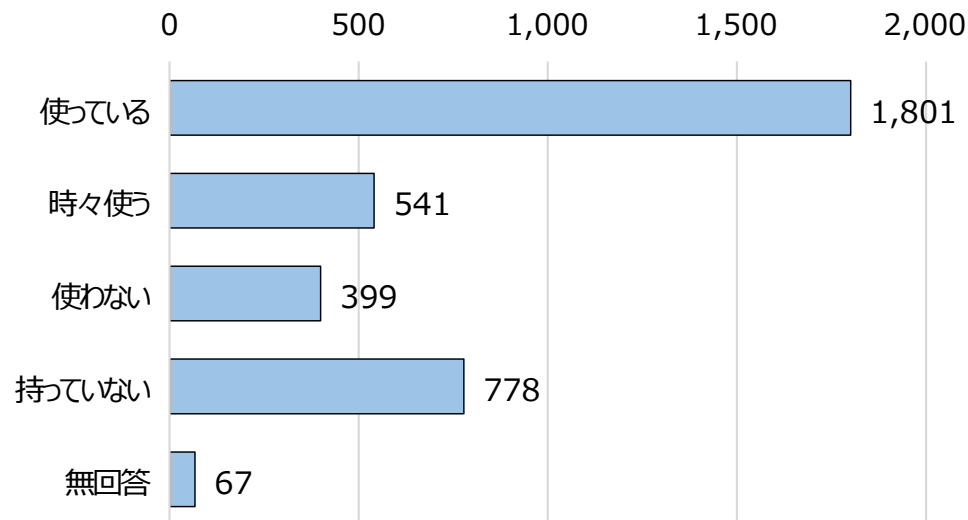
【日常生活を送る上で困っていること】



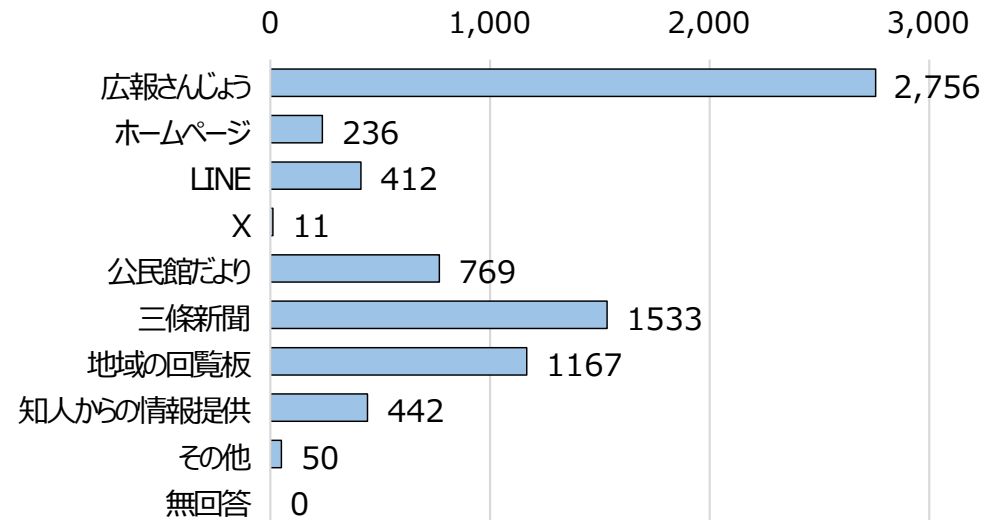
【日常生活で困っている人に対しできること】



【パソコンやスマートフォンの使用頻度】



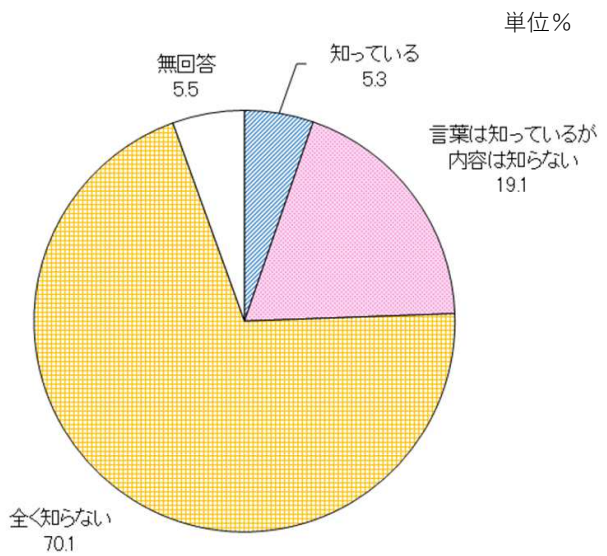
【情報収集の手段】



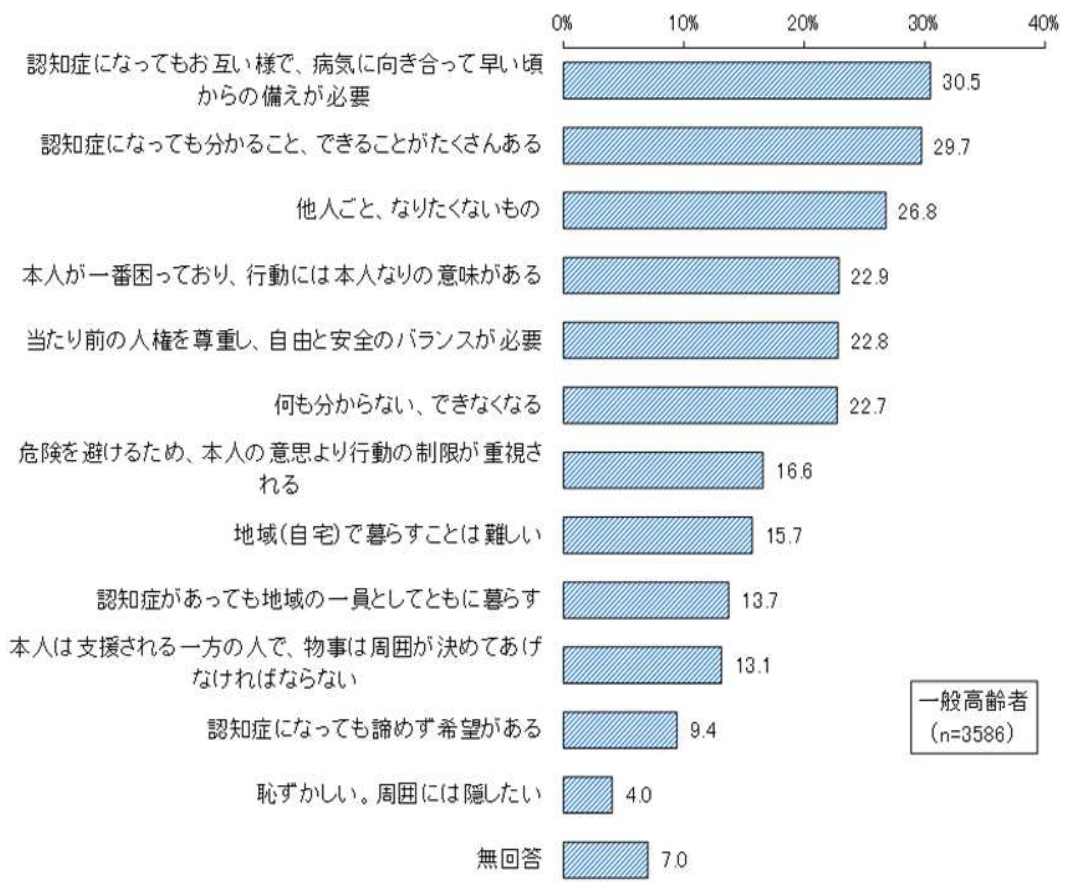
2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果（抜粋）

【新しい認知症観※】

年齢が低くなるほど「全く知らない」の割合が高くなる傾向がある



【認知症のイメージ】



一般高齢者 (n=3586)

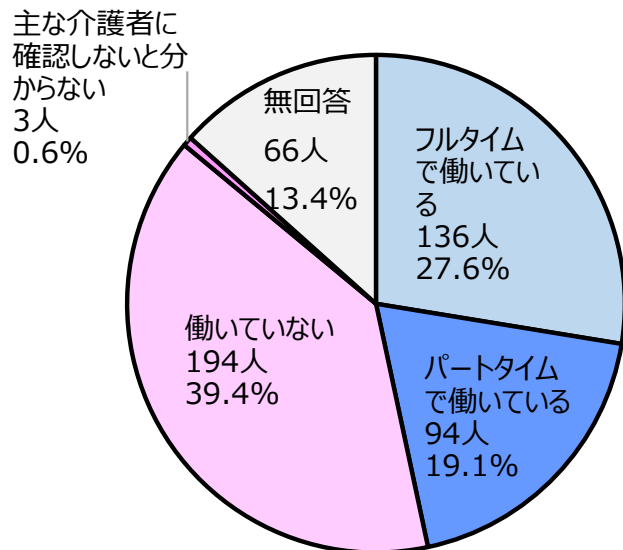
上段：回答数 下段：(%)	全体	知っている	言葉は知っているが内容は知らない	全く知らない	無回答	
一般高齢者	3,586	190	686	2,512	198	
	100.0	5.3	19.1	70.1	5.5	
年齢別	65～69歳	764	39	111	591	23
		100.0	5.1	14.5	77.4	3.0
	70～74歳	924	49	166	674	35
		100.0	5.3	18.0	72.9	3.8
	75～79歳	902	47	200	614	41
		100.0	5.2	22.2	68.1	4.5
	80～84歳	912	28	119	329	40
	100.0	5.5	22.5	64.3	7.8	
85～89歳	341	19	61	210	45	
	100.0	5.6	17.9	63.3	13.2	
90歳以上	93	2	21	59	11	
	100.0	2.2	22.6	63.4	11.8	

※認知症になっても個人としてできることややりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って暮らし続けることができるという考え方

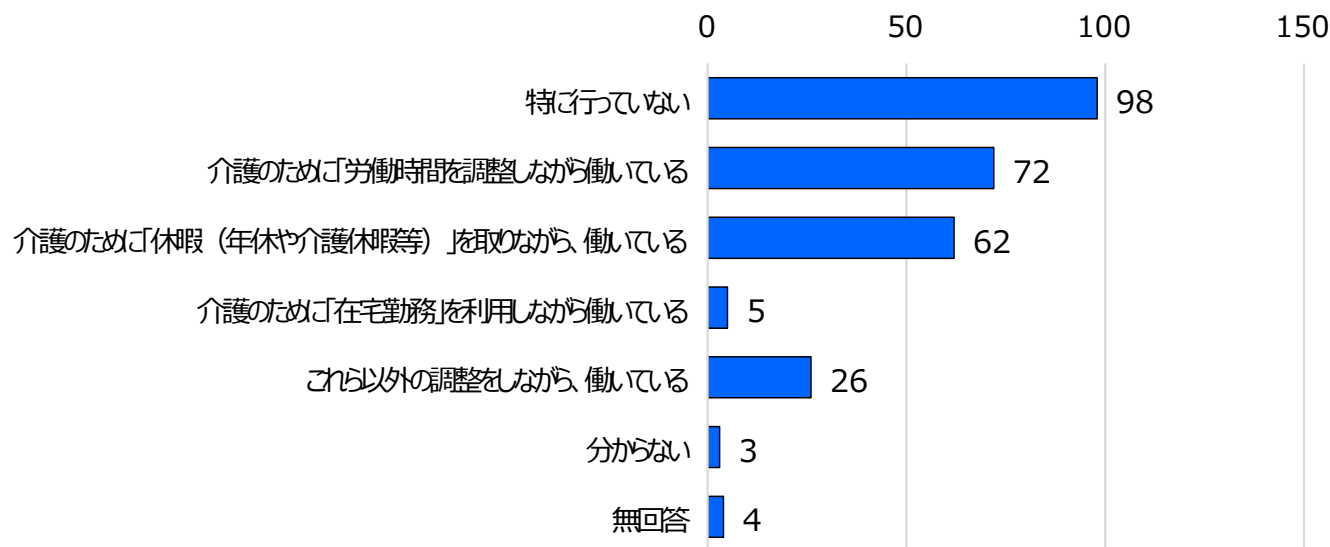
2 在宅介護実態調査の結果（抜粋）

回答率65.1%
n=651

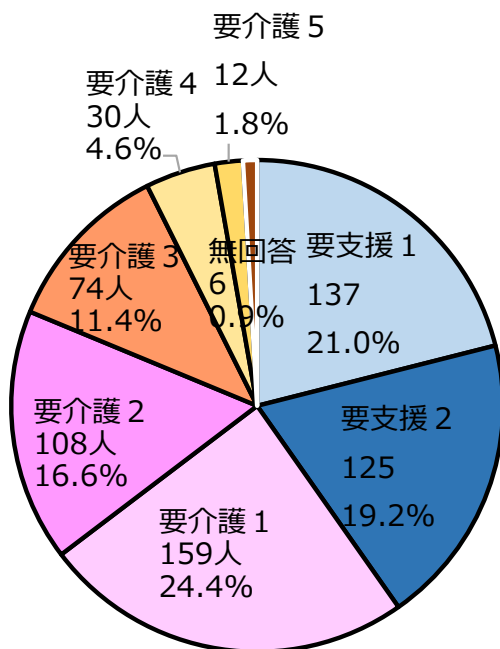
【主な介護者の就労状況】（介護者：493人への質問）



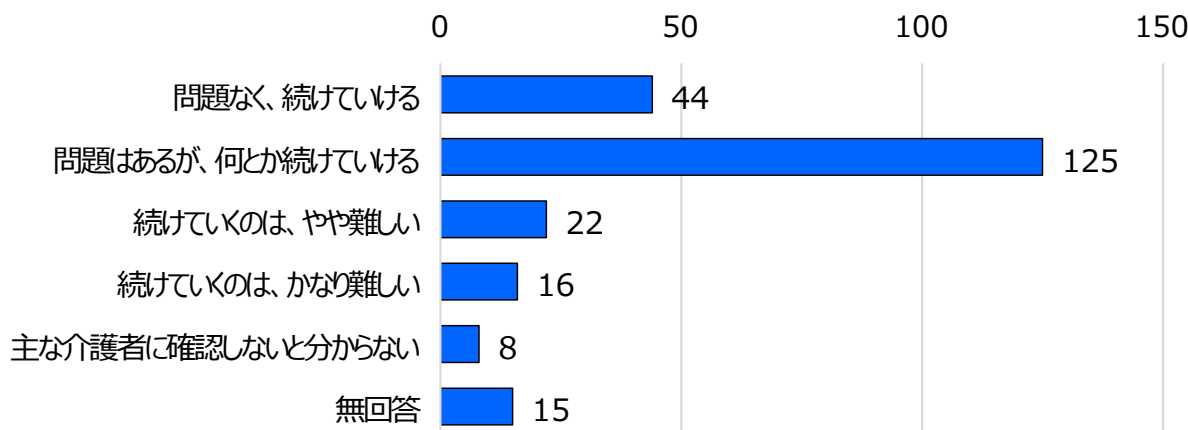
【介護するに当たり働き方の調整を行ったか】（働いている人：230人への質問）



【要介護・支援認定状況】

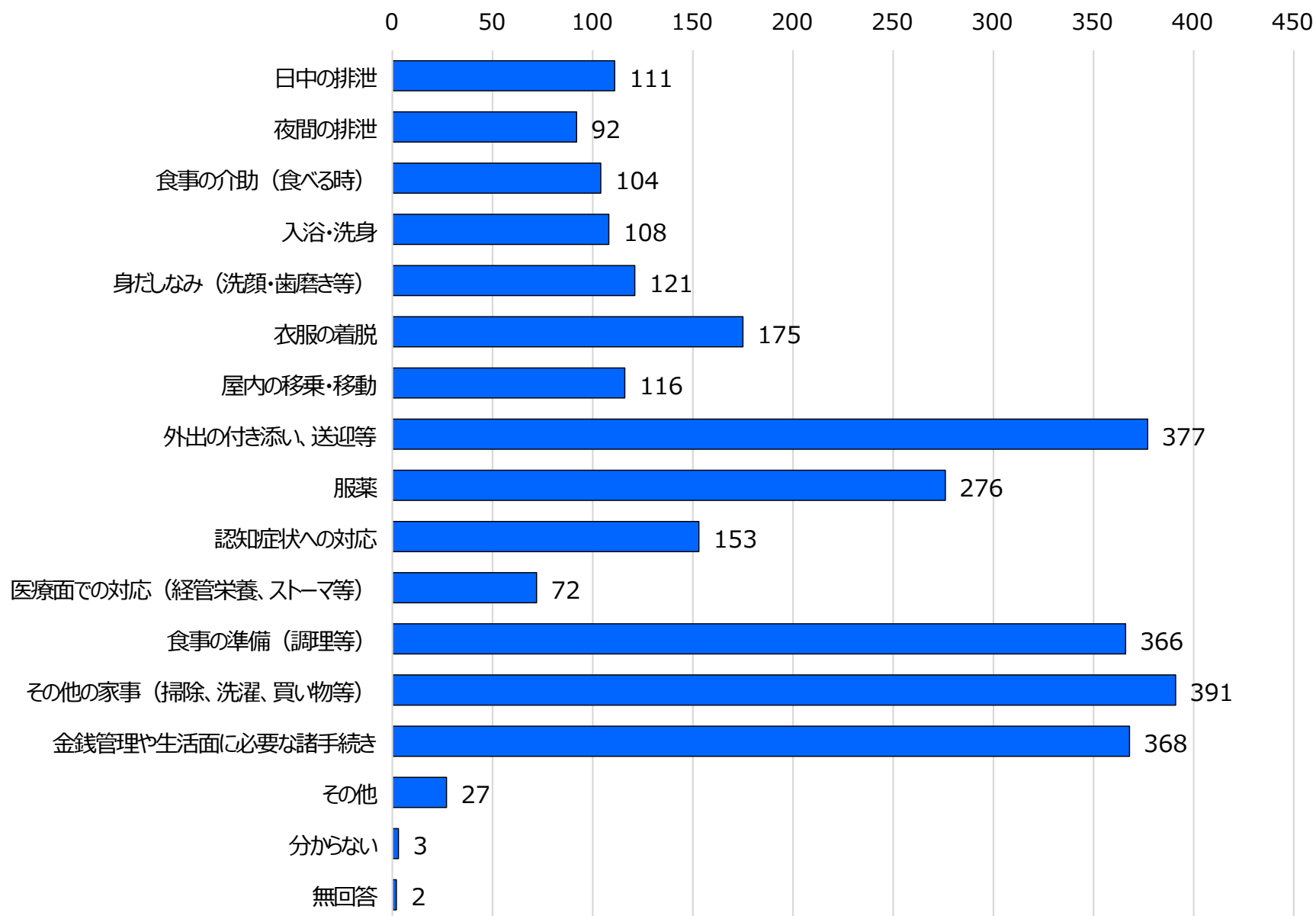


【働きながら介護を続けられそうか】（働いている人：230人への質問）



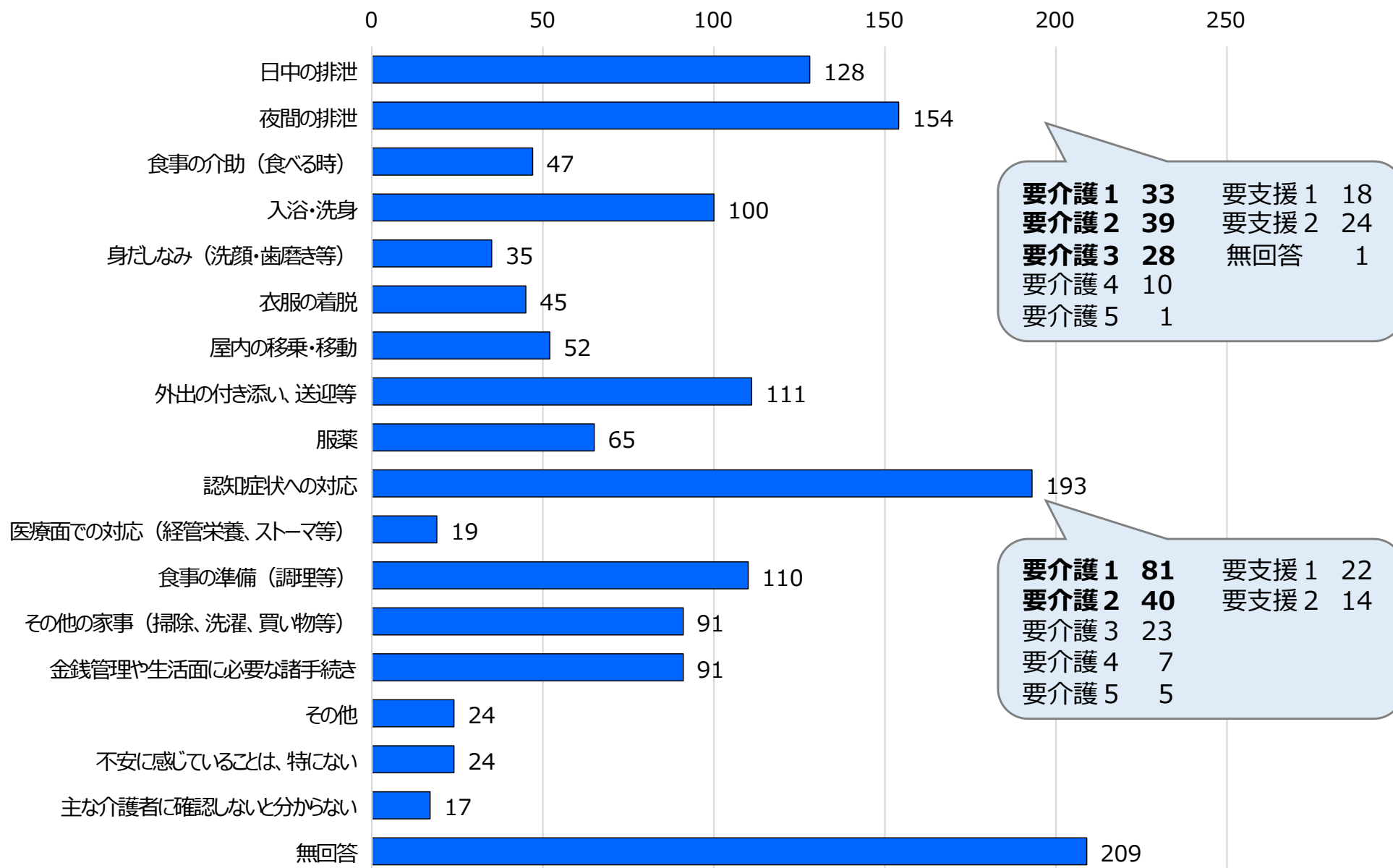
2 在宅介護実態調査の結果（抜粋）

【主な介護者が行っている介護】



2 在宅介護実態調査の結果（抜粋）

【現在の生活を継続するに当たり不安を感じる介護の内容】



2 在宅介護実態調査の結果（抜粋）

【最後まで自宅で過ごしたいか】

本人は、最期まで自宅で過ごしたいと「思っている」（54.7%）と答えた方の割合は5割半ばとなった。介護度が高くなるほど、「本人に確認できず分からない」の割合が高くなり、早い段階での話し合いの必要性を促す施策が望ましい。

